

なんとなく不思議な 小田原



雑感子

いきなりインデックス小田原

「小田原」って何県だと思いますか？ というか「関東地方?」、「関西地方?」、「東海地方?」、・・・って感じで、イメージわかない人多いと思います。

一応「関東地方」の「神奈川県」に属します。ただ限りなく「静岡県」に近い観光地箱根の手前東京寄りの「神奈川県」です。

いちおう、っていうくらいイメージが薄いです。とりあえず、新幹線の駅「小田原駅」は40年以上前からありますから、当然のごとく知ってる方も多いとは思いますが。

でも、なんとなく一って感じがぴったりでしょ？ 小田原は。

最初に不思議ポイントの一部を紹介します。

小田原って人口約20万人の普通の地方都市です。観光的にもガイドブックにもあまり顔を出さない地味な存在です。

まず、小田原市内に鉄道の駅がいくつあるか、知っていますか？ もちろん知っているわけがないですよ。

こんな小さな街に18ヶ所の駅があります。JR3線、私鉄線3線が縦横に走っています。

高速道路(自動車専用道路)も2路線、インターチェンジ8ヶ所あります。

地勢的環境はというと、南に太平洋、北に丹沢山塊、市域中央部を流れる酒匂川(さかわがわ)を配置した周辺は足柄(あしがら)平野が広がっています。

三方を山に囲まれて南に海、真ん中の平野の面積はちょうど京都盆地と同じです。

今から約500年前、いきなり昔に行っちゃいますね、その頃、小田原は関東地方最大の城郭都市でした。

人口も商業集積力も海外貿易(特に中国(唐)との交易)においても重要拠点でした。

当時の兵器である刀、銃器、鎧(よろい)などは小田原の鍛冶屋の高度な技術を駆使して製造されました。

また、日本で最初の「上水道」、つまり飲料水等の用水路を城下町の中に通して実用化していたのは小田原が最古であるとのこと。

これに倣って、徳川家康が江戸の大開発の要になった神田上水、多摩川上水などを造成したのです。

近代に入って、路面電車「ちんちん電車」の日本初は京都市電とされていますが、路面電車の定義が難しいとはいえ、昭和30年頃まで小田原市内に走っていた「小田原電気鉄道」、市内線を路面電車とした場合、小田原が京都よりも1年ほど早く開業したという事実もあります。

歴史的事象、文化的資質、地勢風土などから考察すると不思議な想いにかかれて、「小田原」って独特な不思議な何かが漂っている気がします。

直に言うと、小田原は首都圏内なのに首都圏の都市らしくなく、神奈川県なのに神奈川県らしくない、実はかなり昔「小田原県」が存在していたことも影響しているかもしれません。(これには私もびっくりでした)

その小田原県は県庁を小田原に置き、伊豆半島全域(現静岡県)、伊豆諸島(現東京都)を県域として

いました。

みなさんも自分の興味のある街とか見つけて調べてみるといろいろな再発見があると思います。今回は初めてなので上手に書けませんでした、今後少しずつ手直ししながら完成度を高めていこうと思います。

エッセイというよりもちょっと変わったガイドブックのようになってしまうか、知れば知るほど、わくわく楽しくなる?!小田原を話していきたいと思います。

ここまで読んでくれたあなた。ほんとうにありがとうございました。

自然公園にあるワンダーランド?!小田原

小田原には箱根山系に連なる山、神奈川県内3大河川の1つである酒匂川(さかわがわ)、相模湾(さがみわん)という海があります。

当然のごとく、山にはサル、シカなどの小動物、川にはアユ、ヤマメ、ワカサギなど、海は豊富な魚介類。

レジャー視点から見ると、ハイキング、キャンプ、サイクリング、釣り、海水浴等々とアウトドア天国でもあり、箱根・伊豆の観光地がすぐとなりというポジションです。

聞くとところによると、小田原市内の住宅地(特に箱根寄りのエリア)には野生のサルがよく遊びに来るらしい。

「サルが出没！」なんて、大都市なら大騒ぎでニュースの目玉ですよ。でも小田原では日常的に普通なんです。

海岸沿いを走る西湘バイパス(せいしょうばいぱす)という高速道路には、シカ注意の道路標識が設置されています。なんともものどかな光景ですね。

市内には緑も多く恵まれた自然環境を十分に満喫できるように、英国のようなフットパス構想のもとウォーキング散策コースが約20ヶ所整備されています。

海あり川あり山ありの変化に富んださまざまなコースが充実した案内板や標識で楽しめるようになっています。

どのコースも電車でのアクセスがよく市内各所の駅から出発できるようです。

(続く)

隠れた穴場・板橋界限

私も最近気がついたというか、こんなところがあったんだーって感じです。

小田原駅から小田急線で1駅目の「箱根板橋駅」でおりてすぐのエリアですが、そーそー、箱根板橋と駅名がなっていますが住所地は確実に小田原市内です。これは東京など他地域の「板橋」との区別のためだそうです。

このエリアが私にとって心癒される秘密の場所ですね。

じゃーまず、板橋界限にある名所旧跡の名称をざーとリストしてみます。

板橋地蔵尊、秋葉山量覚院、松永記念館及び庭園等(日本の歴史公園100選)、香林寺、古希庵庭園(明治の元首相山縣有朋の京都、小田原、東京にある三名園の1つ)、伝肇寺、玉伝寺、居神神社、光円寺その他の寺社が、小田原用水や池などのせせらぎ、竹林などの木々の中にひっそりとたたずんでいます。

この辺には、ホテルオークラの創業者の大倉喜八郎の別邸建物(国の重要文化財)、日本の電力王といわれた松永耳庵(有名な茶人の一人でもある)の自宅建物及び私設美術館建物(国の重要文化財)など、まだまだ探せば出てきそうな気がします。

結局、大正から昭和初期にかけての小田原は政財界の大物たちが別荘を構えた黄金期だったのですね。

日本のよき時代に思いをさせ、私はこのあたりをのんびりと散策するのが心地よく感じます。

メインスポット紹介(ショッピングその他)

今まで名所旧跡的な話ばかりしましたので、このへんで市内の話題というか市民が集まってくるエリアの紹介します。

なにからにしようか、どう書こうか迷ってますので、市内にある施設名称をリストしちゃいます。

まず、西武百貨店小田原店、ヒルトン小田原リゾート&スパ、小田原アリーナ、ダイナシティ一モール、小田原シテイ一モール、コロナワールド小田原、小田原ラスカステーションビル、小田原諏訪の原公園、小田原市立かもめ図書館、小田原わんぱくランド(遊園地)、いこいの森公園、辻村植物公園、小田原テニスガーデン、小田原尊徳記念館、生命の星地球博物館(自然史博物館)、かまぼこ博物館、小田原城址公園周辺その他。

まだいろいろありますが、とりあえず思いつくまま書き込みました。どれも1回は行ってみる価値はあります。

ゆったりのんびり、小田原人

小田原ってなんか違うんですよ。時間の流れ方というか速さがね。いい意味でも悪い意味でもですよ。

まず車の走り方、東京、横浜方面からドライブしてくると感じるはずですよ。小田原市内全域もそうだし周辺の町もみんな車はもわっーとだらーっと走っている感じです。東京方面から来た方はちょっとイライラするかもしれません。

事故の確率は減るとは思いますが急いでいるときはやっぱイライラですね、こんな走り方は。ただ、いいなーっと思うのは、出会い頭や合流するときなんか譲ってくれる人、意外と多いです。のんびりでいい人多いのもかもしれません。

ただ、この“のんびり”がいいのか悪いのか、人と競争する人、小田原人（いちおうこの呼び名使います）にはかなり少ないです。

ある意味良くないですね。学業でも商売的にも我が道を行っちゃうんですね（笑）。

ていうか、セカセカしなくても生きていけちゃう、やっていけちゃうからなんでしょうね。つまり、こんな時代にあっても小田原は豊かなんでしょうか？！

宣伝しなくてもいいよって感じで、こじんまりこだけでやってけばいいじゃん！ みたいな、
.....。

やっぱ、昔の「相模（さがみ）の国・小田原」なんだね、殿様商売の方すごーく多いです。いいのかなー？！

これが今現在の小田原の経済低迷の原因の1つかもしれませんね。

晴れた日には、 . . .

小田原ってなんということはなくさりげなくあるみたいな街です。なのに、びっくりするような歴史ゆかりがあっちこっちにあったりして市内をウォーキングするのも楽しいですよ。ただ惜しいのはガイドブックらしきものがあまりないですね。納得するだけの説明がほとんど載ってない本ばかり。

先日ひとつ面白いものを発見しました。小田原西口（新幹線側の駅前）からの北原白秋の童謡の道散策コース、説明掲示板、方向指示標識完備のハイキングコースなのですが、各所のポイントに白秋がそこで作った童謡の説明版があり順番に回っていく楽しみを味わいながら、風光明媚な景色を堪能できます。

コース後半には「小田原文学館」にたどりつくことができます。ここでまた関心関心ですね、小田原には有名な文学者が明治から昭和にかけて滞在してたようです。

晴れた日には小田原市内を歩いてみると面白いですよ。あっちこちに有名な老舗があったり、お茶したりお饅頭を食べたり、いいですよ。

なんだかんだいっても500年以上の歴史や伝統（戦国時代からみてですが）が、とりあえず、現在まで続いてきている街なので、見えないなにかがありそうですね。

小田原買い物事情

小田原の商業環境分析?! じゃないですけど、いろいろ勝手に書いてみます。

小田原ってほんとうに商売しづらいと思います。まず、お金持ちの方々は日用品はともかく高級品というか非日常的な消費行動は小田原ではしません。

というのは、一番の要因として、新幹線ですね、小田原駅から品川駅まで28分、東京駅まで35分なんですよ。

銀座も丸の内もすぐとなり感覚、有名デパート、ブランドショップ、有名なレストランなども簡単にアクセスできてしまうんですね。これじゃー、小田原に同類の店舗なんて存在できませんよ。ただでさえ人口が少ないんだもの。

それと、現在小田原駅周辺よりも隣のJR鴨宮駅(かものみやえき)周辺エリアの方が商業集積が加速しています。

小田原市の副都心的な位置づけで開発が進んでいる地域ですが、市域中央部を流れる酒匂川を境に東半分のエリアです。このエリアだけで人口は10万人以上超えていますますます増加中です。

巨大なショッピングモールが複数あり、映画館などや公共施設も小田原駅方面の西部地域から移転してきています。

小田原駅方面の旧市街に対して新市街地として開発発展が見込まれています。

二宮尊徳(金次郎)知ってますかー？

最近の小学校の校庭には二宮金次郎(尊徳)の銅像がないところが多いみたいですね。

実は、二宮金次郎(尊徳)さんは小田原市栢山生まれだったのです。小田急線の栢山(かやま)駅から小田原駅方面に7分ほど歩いていくと、尊徳記念館(博物館相当施設)と生家(本物の家を移築した)があります。

尊徳さんの遺品の品々が多数展示されており各コーナーではムービーが見れるようになっています。

また、小田原城の南側の報徳二宮神社のすぐそばに報徳博物館があります。

ここでは、博物館としての展示もしていますが、尊徳を学術的に研究する機関でもあります。

毎年中国からの留学生を受け入れたり、さまざまな企画イベントが開催されています。

市内には二宮尊徳さんのゆかりの場所があちこちに見られます。





小田原駅東口から海岸まで



小田原早川港とブルーウェイブリッジ

早川駅徒歩2分





北条早雲像
小田原駅西口前



小田原駅コンコース





小田原城馬出門全景



小田原城の銅門



自然史博物館
入生田駅前



松永耳庵庭園
板橋駅徒歩8分



松永耳庵庭園

板橋駅徒歩8分